

<b>Title</b>	マルチメディアを利用した英語教育：リスニング指導における映画字幕の提示方法
<b>Author(s)</b>	チェンバレン, 暁子
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-3 : 4-5
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2326">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2326</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# マルチメディアを利用した英語教育 -----

## リスニング指導における映画字幕の提示方法

チェンバレン 暁子

近年、テクノロジーの進歩と共に語学教育を取り巻く環境は大きく変化し、映像・音声・文字のマルチメディア情報を利用した英語教育が盛んに行われるようになってきている。聖学院大学では、2003年4月より英語の基礎総合科目にシネマ（現、Cinema）英語という科目を設け、DVD映画やPCを使いながらリスニングや発音指導を授業の中で行っている。映画は学生にとって興味をもち易く、またauthenticな教材として満足度の高い教材である。しかしながら、より効果的な教材としての映画や字幕の使い方に関しては数多くの研究がなされつつあり、その成果が待たれるところである。本稿においては、リスニング力向上を目的としたDVD映画の字幕提示方法についてこれ迄行われてきた研究と考察、そして授業への適用について述べる。

一般的に映像字幕といえば、外国語映画などに提示されるL1（母語）の翻訳字幕（subtitle）を指すが、語学教材として用いられるL2（英語）字幕は、本来アメリカにおいて聴覚障害を持つ人々がTVの情報を享受できるように提供されたcaptionと呼ばれる字幕を指した。その後、captionはアメリカの殆どのTV番組だけでなくビデオなどにも普及し、次第に本来の聴覚障害をもつ人々のためだけでなく、子供の言語習得や第二言語習得のための教育などにも広く活用されることとなった。そして今日までその利用法と効果に関する研究が進められてきている。特に、近年、様々な言語の字幕や音声への切り替えを容易にしたDVDの普及と共に、その字幕の提示方法や利用法には一層関心が高まってきた。

以下はDVDで可能な提示方法の種類である：

- ① スタンダード（L1字幕・L2音声）
- ② バイモーダル（L2字幕・L2音声）
- ③ リバース・モード（L2字幕・L1音声）
- ④ 字幕なし（L2音声のみ）

Caption字幕の英語教育への適用に関しては、映像・音声・文字という複数のメディアがより効果をもたらすという「Dual Coding Model」をPavio（1986）が提唱し、言語情報と非言語情報が相互に補われることにより、より効果的な記憶想起により、良い言語学学習効果をもたらすと報告している。更に、Markham（1989）、Garza（1991）、Holobow, Lambert, and Sayegh（1984）、Danan（1992）らはL2字幕がL2映像の内容理解に効果があることを報告した。Borras・Lafayette（1994）は字幕つき映像教材の提示により、内容理解やリスニング能力のみならずオーラル・コミュニケーション能力の向上にも有益である事を示唆した。更に日本では2001年には田浦の研究においては、中級、上級学習者を対象にスタンダード（L1字幕・L2音声）とバイモーダル（L2字幕・L2音声）の字幕提示方法で、どちらの提示方法でもリスニング能力は向上を示した。また、植松（2004）はバイモーダル字幕提示群がスタンダードの字幕提示群よりリスニング能力向上において有意な伸びを示し、調査終了後のTOEICテストでも、バイモーダル提示群は初級・中級共にリスニング能力のスコアが有意に向上し、特に中級では文法読解力のスコアも有意に向上したことを報告し、字幕の提示による文法読解力への効果も示唆している。また、適切なレベルの映画を教材として選択すれば、たとえL2字幕・L2音声であっても、初級者にもリスニング能力の向上に効果が期待できるとしている。（Edasawa et al., 1992; 植松, 2004）

自然な発話を聞き取るときに起こるリスニングのメカニズムはとても複雑であり、言語心理学、認知心理学、意味論、用語論、談話分析、神経言語学など様々な分野から研究がなされているが、その過程はTaylor（1981）によれば 1) stream of sound（内容理解のない一連の音の認知）、2) word recognition within the stream（一連の音の流れの

中での単語の認知)、3) phrase/formula recognition (フレーズや慣用句の認知) 4) clause/sentence recognition (節や文の認知)、5) extended speech recognition (長いスピーチの理解) の5段階に分けることができるとしている。しかし多くの学生にとってナチュラル・スピードで発話された英語音声は一連の音の流れ、あるいは一連の音の中の既知の単語のみの認知にとどまりその過程からその先に進むことは中々困難なケースが多い。そもそも口語英語は、liaison, elision, assimilationなどの様々な音声現象により単語一つ一つの几帳面な発音からはかなりかけ離れているうえ、prosodyを習得するのも容易でない。Ito (1990) は「映像から聞き取った音は、聞いただけでは分からない一連の音声の流れであるかもしれないが、字幕という言語文字情報が音声の流れを単語レベルに区切り、音の分節化、チャンク化を助け、『意味のあるまとまり』として示すことで、聞き取りを補助する効果がある」と述べている。以上の事からより多くの映像音声をL2字幕の補助を利用しながら『意味のあるまとまり』に処理することで、様々な音声現象や音韻情報が脳内に蓄積され、リスニングの向上に繋がってゆくのではないかと考えられる。

これらの事を考慮に入れながら、シネマ英語の授業で、筆者は現在以下の項目を中心に授業を行っている；

- ① dictationや、内容理解問題を行いながらできるだけ多くauthenticな英語音声を聞き取る練習を行う
- ② 映像・音声と字幕を同時に提示することで、音声と既知の言語文字情報との一致を促す
- ③ 口語独特の表現を学ぶ
- ④ 音声現象・prosody・発音の指導を行う
- ⑤ PCに取り込んだ映像音声を聞きながら、prosodyや音声現象に忠実に発音したものを録音し、映像音声と聞き比べたりスペクトグラムを利用して自分の音声を分析する

現在、より効果的な字幕の提示・利用方法を調査

中であるが、これまでの研究においては、バイモーダルで提示し、内容理解問題を行った後、音声指導dictationと発音練習を繰り返し行うことで、指導前と後に実施したリスニング・テストで、有意な成績の伸びが確認できている。今後、更に他のモーダルでの提示方法や、リスニング以外の映画を利用した英語教育における効果も検証してゆきたい。

## 主要参考文献

- Garza, Thomas J. (1991). Evaluating the Use of Captioned Video Materials in Advanced Foreign Language Learning. *Foreign Language Annals*, 24, No.3, 239-258.
- Holobow, N.E., Lambert, W.E., and Sayegh, L. (1984) Pairing Script and Dialogue: Combinations That Show Promise For Second or Foreign Language Learning. *Language Learning*, Vol.34, No.4, 59-75
- Markham, L.Paul.(1989).The effects of Captioned Videotapes on the Listening Comprehension of Beginning, Intermediate, and Advanced ESL Students. *Educational Technology*, October, 38-41.
- Pavio,A., (1986) .Mental Presentation: A dual coding approach. *New York, New York: Oxford University Press*.
- Taylor, Harvey M. (1981) Learning to Listen to English. *TESOL QUARTERLY*, Vol.15, No.1, pp.41-50
- Edasawa, et.al.(1992) The effects of teaching methods in using films for listening comprehension practice. *Language Laboratory*, 29,53-70.
- 田浦秀幸・田浦アマンダ (2001) 「DVD映画提示形態 (モダリティ) によるL2リスニング力への効果」『福井医科大学研究雑誌』 第1巻 第1号・第1号合併号, 65-70
- 植松 茂男 (2004) 「DVD映画教材利用時の英語字幕が英語学習に与える影響について」『メディア教育研究』第1巻1号, 107-114.
- (チェンバレン・あきこ 聖学院大学基礎総合教育 部特任講師)